

痛風発作の患者に 3 回の鍼灸治療を行った症例

神奈川県 三原基裕

病院で、「痛風」と診断された患者が、発症 3 日目に来院した。当院でも痛風によって引き起こされたものと診断し、患部の左足の親指は赤く腫れ上がり、痛みもひどく、歩くのもままならない状態だったが、家族の希望もあり、またしばらくすれば、症状も治まるものとして、鍼灸治療適応と判断し、計 3 回の治療を行った。発作自体は 1 週間程度で終息するもので、発作が終息に向かう過程で、その間に鍼灸治療を行った事で、症状を悪化させることなく、順調に治まったので報告する。

[症例]78 歳 男性 無職

[初診]2004 年 8 月 2 日

[主訴]左足親指付け根の痛みと腫れ

[現病歴]2004 年 7 月 31 日、朝目が覚めたら左足の親指の付け根あたりが、痛かった。その場所を見てみると赤く腫れているようで、熱ぼく感じられる。触ってみると痛かった。床から起き上がり左足に体重を載せるとビーンという感じで痛くて、思わずびっこになってしまう。何とか立ち上がったが、びっこで家の中を動いた。痛みと腫れはひどかったが、病院に行かず放置していた。

ここ数日、足を物にぶつけた、転んだ、切り傷を負った、激しいスポーツ、長く歩いたとかの記憶は無く、前日まで何も無く、とくに思い当たるところがない。足がむくむ事はあったが、膝の関節、足首の関節も痛んだ事は無く、このような症状は今回が初めてである。翌日も痛みも腫れも

退かなかったが日曜日だったので、病院が休みなので一日あまり動かさず自宅で安静にしていた。

8 月 2 日に S 病院に行って XP 検査の結果、痛風と診断され、湿布薬、飲み薬を処方された。安静と、アルコールは飲まないようにと指示された。

患者の長女が当院に定期的に通院しており、患者本人も当院で治療を受けた事があり、長女が病院では、薬の処方くらいの処置だったので、それならば、鍼灸治療をして欲しいとの事で、その日のうちに付添って来た。

現在、痛みは左足、親指の付け根あたりにあり、赤く腫れて、火照っている感じがある。左足に体重をかけて歩こうとするとビーンと痛くてびっこになってしまい、ズクン、ズクンとした痛みが左足の親指あたりにしばらく続く。家の中をびっこで移動するのが精一杯。家の階段を一步一步踏み揃えて昇り降りしている。左足の親指あたりが痛く、腫れているため靴が履けないのでサンダルをつっかけて来院した。両方の膝、手首、手の指、肘の関節の痛み、腫れは無い。右足の痛み、腫れは無い。体に寒気は感じない。一番楽な姿勢は横になってじっとしている事である。痛み出してから 3 日目だが、痛みが和らぐ気配はない。腫れも退いていない。

いまは無職で、精神的なストレスは自分では感じない。煙草は吸わない。アルコールは焼酎の一升瓶を 12、3 日で一本空ける。それにビールコップ 2 杯、日本酒コップ 2 杯を毎日飲む。小便の量、回数は普段と変わらないように思う。糖尿病ではない。体重の減少は無い。高血圧で、医師からコレステロールが多いと言われている。スポーツはやらない。

[既往歴]3年前、前立腺癌(3ヶ月ごと検診、投薬治療)

[家族歴]父、食道癌

[診察所見] 視診 左足第1趾内側が赤く脹れている。皮膚のシワが無くなり、テカテカに艶やかである。両側の手の指、手首、肘、膝、健側の足首、足の指に発赤、腫脹は診られない。

触診 患側と健側の患部付近を筆者が手のひらで触ると、患側が健側より熱い。圧痛は患部が腫脹しており、圧を加えると痛みが増悪する事から、検出しなかった。

[診断]すでに、一次選択として病院に行き、「痛風」との診断であったが、当院でも、とくに思い当たるところも無く、朝方にかけて痛風発作が出現し、痛風の好発部位である足の第1趾に発赤、腫脹が診られ、男性である事から痛風と診断した。

[対応]あなたは、病院で言われたように、痛風であると思われます。発病から3日目という事もあり、あとしばらく痛みや、脹れは退かないと思われます。鍼灸治療で痛みや脹れがすぐに治る事は考えにくいですが、治療をする事によって少しでも早く痛みや脹れが退く事が期待できます。お医者さんの言われたとおり、お酒は飲まないで下さい。

[治療]本症例は、患部に激しい痛みと、腫れがあるが、痛風によって引き起こされたものと判断し、今後、腎臓病などの合併症や、再発作の懸念はあるものの、痛風発作は通常1週間程度で痛み、腫れとも消退し、治まるといわれ、鍼灸治療を行っても支障がないと判断し、また鍼灸治療による患部の消炎、鎮痛、腎臓の機能向上、排尿促進を期待し、以下の治療を行った。

使用鍼はステンレス製1寸6分2番・セイリン社製パイオネックス1.2

mmを用いた。

まず、伏臥位で左右の腎兪に1寸6分2番鍼で直刺・単刺で1.5cm刺入。左右の復溜に1寸6分2番鍼で直刺・単刺で5mm刺入。

次に仰臥位で、パイオネックス1.2mmで左の隠白、太都、太白に3分貼付。同穴に糸状灸で5壮づつ、直接灸で施灸。左の中封に1寸6分2番鍼で直刺・単刺で5mm刺入。曲骨、関元に1寸6分2番鍼で直刺・単刺で1cm刺入。

第2回(8月3日、2日目)

痛みが少し楽になってきた。歩行はびっこになってしまう。家の階段を一步一步踏み揃えて昇り降りしているが、発症時よりは昇り降りにかかる時間が少なくなってきた。脹れと皮膚の赤味は変化が見られない。治療は前回と同じ。

第3回(8月5日、4日目)

痛みがさらに楽になった。自分で患部を触ってみると痛みが和らいでいるのが感じられる。歩行は痛みを意識してびっこになってしまうが、足の運びはスムーズになってきている。家の階段はあいかわらず、一步一步踏み揃えて昇り降りしているが、時間はさらにかからなくなってきている。患部の脹れも赤みが薄れ、赤黒くなってきた。テカリが取れてきて皮膚のしわがよってきた。治療は前回と同じ。

痛み、腫れとも残っているものの、いずれも消退傾向にあるものと判断し、今後再発作の恐れがあるものの、日常生活の支障も少なくなり、発症から1週間が経とうとする事から、略治として治療を終えた。

痛み、腫れとも悪化することなく、時間の経過とともに治まってきたので、鍼灸治療は概ね、妥当だったと思われる。

患者は、その後 2004 年 11 月 13 日、転倒して、側腹部・腰部を打撲し来院した際、足の経過を尋ねたが、最後の治療後数日して、痛み、腫れとも消失し、普段どおりの生活を送っており、その後痛風発作の再発も無いとの事だった。

[考察]本症例を痛風と診断した。以下、その理由を述べる。

- 1 症状が出てから 1 日以内に症状がピークに達している
- 2 一つの関節だけに症状がある
- 3 関節の部位が赤くなる
- 4 関節が腫れている
- 5 足の第一趾の付け根の関節に激痛がある
- 6 患部が発熱している。
- 7 患部がテカテカになっている。
- 8 患者は男性である事。
- 9 明方に発症している。

なお、発症状況 及び 診察所見等から以下の類症疾患を除外した。

(1) 偽痛風

70 歳以上の女性ではない。(1)

膝や足首、肩などの比較的大きな関節に発症していない。

膝や足首に慢性の関節炎がない。

急激に悪化している。

疼痛が激しい。

発熱がない。(2)

(2) 外反母趾

女性ではない。

炎症が激しい。

母趾が外側を向いていない。

急激に悪化している。

疼痛が激しい。

(3) 慢性関節リウマチ

手首や手指の関節、膝関節などに多発的に発症していない。

対称性の関節炎が長期間続いていない。

急激に悪化している。

女性ではない。

手首の腫脹が見られない。

手指の関節に変形が診られない。

手指の関節に脹れが無い

(4) 蜂窩織炎

細菌感染するような傷を負っていない。

悪寒戦慄がない。

高熱を出していない。

(5) 足関節の捻挫

直近、転倒したとか足首を捻ったという覚えが無い。

激しいスポーツをしない。

(6) 足部の疲労骨折

長時間歩かない。

足の第 2、第 3 趾でない。(3)

激しいスポーツをしない。

本症例は病院で痛風と診断されたが、痛風発作の四徴候といわれ、

これらが揃っていれば典型的な痛風といわれる、激しい痛み、患部が熱を持つ、テカテカ赤くなる、腫れ上がるという症状が全部揃っており、当院でも痛風と診断した。

さて、なぜ痛風の発作が数日以内で治まるのかと言うと、尿酸の結晶が患部が発熱する事で尿酸の結晶が溶解し発作が治まる(4)という。逆に体温の低いところに尿酸の結晶が出来やすいという事で、母趾の付け根が好発部位なのは、ほかの部位に比べて体温が低いからで、夜中から朝方に発作が出現し易いのも、この時間帯が一日の中で体温が低いからという(5)。

本症例には、患部に施灸しているが、積極的に患部を温めようという意図はなかった。それは、患部が赤く脹れあがっており、過剰な刺激を与えることで、症状が一時的にも悪化する事を恐れたためで、患部への鍼治療も同様の理由からパイオネックスを使用し、刺激量には注意を払った。

赤く脹れあがっている患部を目の当たりにすると、急性の炎症には患部を冷やす処置をしたり、患者にもそのように指示するし、教科書的にも痛風発作中には患部を冷やすようにとあるが、しかしながら前述の自己の発熱で尿酸の結晶が溶解し発作が治まるとの事から、灸等で患部を温める事で、尿酸の結晶の溶解を早め、炎症がより早く治まる可能性があるのではないかとの推論も成り立つ。したがって、痛風発作中の患者は頻繁に治療する機会は少ないと思うが、今後仮に来院した場合は積極的に灸治療を行ってみようと思う。

痛風は、古来より美食病ともいわれ、中年以降の男性に多く発症していたが、ストレスとの関りや、食生活、生活環境の変化で若い人、女性

にも発症する人や、痛風予備軍が増加傾向にあるといわれている。発作中の激しい症状で一次選択として、鍼灸院に来院する患者は稀であろうが、とくに初めての発作は1週間から10日程度で治まるので、その経過は明らかであり、その期間に鍼灸治療を行う事で、患者の苦痛を一日でも早く軽減させるのに有効ではないかと思う。また、痛風発作の既往歴がある人には、再発予防として生活指導とともに、血圧調整、腎機能の向上等、鍼灸治療が活用出来るのでは。

[参考文献]

- (1) 林泰史: ひざ・あしの痛み p.48, PHP 研究所 1998
- (2) 林泰史: ひざ・あしの痛み p.112, PHP 研究所 1998
- (3) 高倉義典他: 足の診療ガイドブック p.153, 南江堂 2001
- (4) 木原弘二: 痛風 p.45, 中央公論社 1990
- (5) 林泰史: ひざ・あしの痛み p.86, PHP 研究所 1998

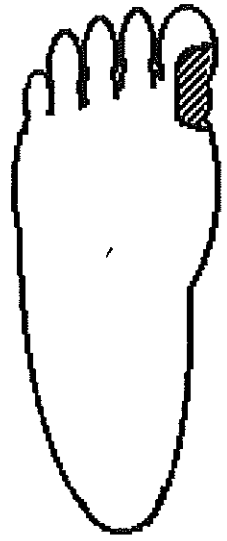


図. 1疼痛・発赤部位

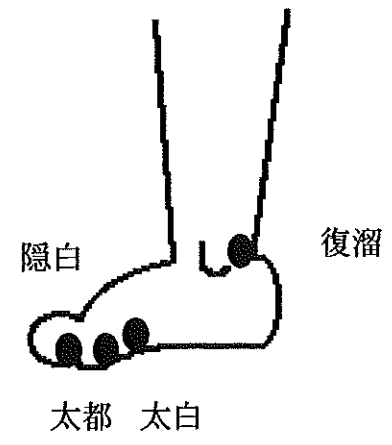


図. 2治療点